

大学院特別講義

(医歯学先端研究特論)

(生命理工学先端研究特論)(医歯理工学先端研究特論)

下記により大学院特別講義を行いますので、多数ご来聴下さい。

記

講師： 東京慈恵会医科大学・医学部・教授

総合医科学研究センター・神経科学研究部

加藤 総夫 先生

演題： 慢性疼痛と扁桃体シナプス可塑性

日時： 平成 25 年 9 月 25 日 (水) 17 時 30 分～19 時 30 分

場所： M&D タワー 11 階 大学院講義室 3

内容：

「痛み」は臨床医学の重要問題であり、他者の痛みの理解こそが医学を生み出したと言っても過言ではない。痛みは「実際に存在する、または、存在するかもしれない組織損傷に関連した、または、そのような損傷に関連して述べられる、不快な感覚および情動」と定義されている(国際疼痛学会)。したがって痛みは「侵害受容」でも単純な「感覚」でもなく、個体の非常事態に対応して高い優先度を持って生じる脳の総合的な適応応答であると言ってよい。組織損傷や炎症などの情報に基づいて行動・内環境プログラムを書き換え、生体の非常事態に対処する能力は、個体の生存可能性を高める上で進化上大いに貢献したに違いない。だが一方、そのシステムの高い可塑性がゆえに、高等動物においては慢性痛などの痛みの苦痛だけを本態とする病態も生み出された。近年、情動の座とされる扁桃体に侵害受容情報が直接送られ、その活動やシナプス伝達を修飾し、慢性痛における可塑的变化を担う事実が明らかにされてきた。「侵害受容性扁桃体」におけるシナプス可塑性の解析を中心に、「痛み」と「情動」を結ぶ神経機構に関する近年の成果を紹介する。

担当：システム神経生理学分野

連絡先：杉原泉 内線 5152/5153